

## 今回の事件のシナリオ

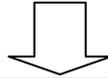
宮本武蔵が高校時代の同級生の佐々木小次郎を木刀で殴った事件。  
武蔵が小次郎を殺すつもりで殴ったかどうか（殺意があったかどうか）が争点

武蔵に殺意がある場合→殺人未遂罪が成立

武蔵に殺意がない場合→傷害罪が成立

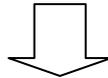
### ◎考え方

殺すつもりがあったかどうか



人の気持ちの問題

その人以外には本当のことは分からない。



外から見て分かる事情から、人の気持ちを考えてみよう

### <具体例>

次のそれぞれ二つの場合で、犯人が被害者を殺すつもりがあったかどうかの判断に違いがあるか考えてみよう。

- ① 手で殴る場合と斧で殴る場合
- ② 拳銃で胸を狙う場合と足を狙う場合
- ③ 一回蹴る場合と百回蹴る場合
- ④ 犯人と被害者がもともと仲が悪かった場合とそうでない場合

## 事件に至る経緯

武蔵と小次郎、徹子は高校時代の同級生。

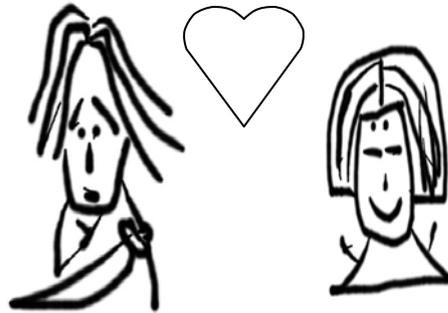
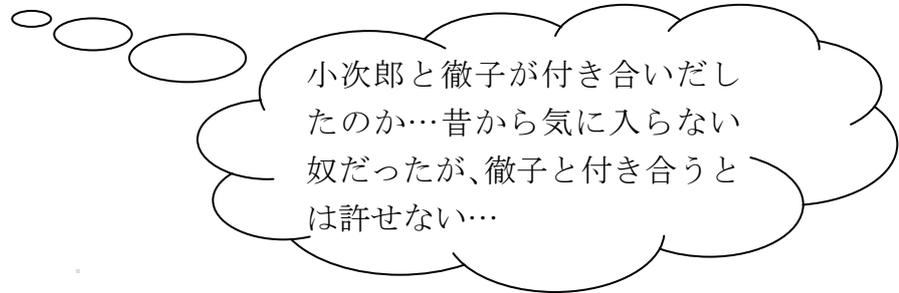
武蔵は、徹子と高校2年の時（平成20年3月）から交際していたが、平成23年3月に徹子と話し合いの上別れた。

武蔵は、某有名大学 T 大学に入学した小次郎を妬ましく思っていた。

武蔵は、4月13日、巖流島で剣道の練習をしていたところ、仲良く手をつないで歩いている小次郎・徹子を目撃する。



武 蔵



小 次 郎

徹 子

武蔵は、高校卒業後 T 大学に入り、自分の高学歴を鼻にかけている様子的小次郎を普段から憎らしく思っていた。そんなとき、小次郎が徹子と付き合いだしたことを知り小次郎に強い憎しみを抱く。そして…

武蔵、木刀を構えながら小次郎と徹子のもとへ走り寄る。



武蔵「チェストー」と言って、手に持っていた木刀で小次郎に殴りかかる。

小次郎、右腕・右額負傷。流血！

【検察官】小次郎の頭を狙った。

【弁護人】小次郎の肩を狙っただけ。



小次郎、栈橋に停泊していた漁船「関夕三郎」に逃げ込む。



武蔵、小次郎を追いかける。漁船で小次郎に追いつく。

【検察官】更に攻撃するため追いかけた

【弁護人】小次郎に謝るために追いかけた。



武蔵、小次郎に向かって行ったところ、バランスを崩して海に落ちた。

【検察官】「話せば分かる」と言う小次郎の言葉を聞かずに木刀で殴りかかり、バランスを崩して転落した。

【弁護人】武蔵は「話せば分かる」と小次郎に言って抱きつこうとしたら、バランスを崩して転落した。

